

●通学距離、通学時間

質問・意見	教育委員会回答等	地区
答申は児童数に注目し成り立っている。統合により通学時間がかかるようになり、登下校が大変になる。心配である。また、核家族が進んでおり、児童生徒の具合が悪くなった時も心配である。（地域住民）	通学時間がかかるようになるのはご指摘のとおり。検討会でも議論があったが、子どもたちの学びの環境を最優先に考えると、最低限必要な児童生徒数での学びが子どもたちの未来のために大事ということでこのような答申になっている。 児童生徒の通学時間や、体調不良時等の学校の対応は、このご意見を受け、今後の検討課題とさせていただきます。	松一
今後の推移は減少で出ている。子どもたちは生まれた地域で学校に通うが、これから先、もっと減少する可能性もあるのでは。子どもたちの親はどう考えるか。本当は地元に住たいが子どものこと考えると「街場」へ出たいということが進む可能性があると思う。二中の減少数を考えると石井、大平の一貫校は現実味があるが、そうすると通学距離が大きくなる。一貫校となった場合、通学距離が長くなり、その手段はどうするか。現在も親の送迎が多い。少し遠いと親が送迎しているのが現状。体力等考えると歩くのが良いがなかなかそうもいえないところがあるのかなと思う。（地域住民）	現時点での出生数に基づき算出しており、予測の数値であるため不確定なもの。今後どうなるかは流動的なもので、何年度にどうする、ということはお示しできない、その点をご理解いただきたい。また、親が地元を離れていくことについても検討委員でも話しがあり、学校の魅力化についても、義務教育学校や小中一貫校で学校の魅力を高めて地域と子どもをつないでいくことも、時期は明言できないが見据えていく必要がある。二中で学んで巣立っていく子どもたちが将来地域に戻ってくる、そういった子どもを学校で育てていかななくてはならないと考えており、検討会でもそういった議論があったことをお伝えします。 万が一統合した場合の通学方法などは、答申では現状維持としており、将来的には小中一貫校という部分しか触れておらず、通学手段については具体的に配置等が決まった段階で検討していきたい。	松二

●複式学級

質問・意見	教育委員会回答等	地区
推移を見ると複式学級になると思われる。答申でICT活用について記載があるが、オンラインで他校と結び学習することについて教育委員会はどうか考えるか。（議員）	4名未満となった時どう考えるか。コロナ禍を経てICT環境が学校でも整ってきている。この充実整備と活用について教員の質的向上に取り組んでいきたい。複式学級の学びをどう伸ばしていくか、今後の研修等のあり方も含め検討していきたい。	松一
小規模校のアンケートで教職員から複式学級は教え難いとの意見があった。児童は複式学級についてどう考えているか。このことについてどうとらえているか。（同上）	教員の教え難さの意見は、「間接指導」「直接指導」が生じる点が教え難さに繋がっているのではないかと。児童、保護者からきめ細やかな対応をいただきありがたいとの声をいただいている。	松一
今回の答申は国の基準だけでなく、地域を大事にし、複式学級の良さも見つけており、素晴らしい内容と思う。自分は元教員だが、複式学級の経験がある。複式学級ではお互いに教え合う学びが見られた。またオンラインの活用など考え方が柔らかいと思った。子どもたちや地域を大事にしたい。義務教育学校については分からない点が多い、教育課程作りが重要であり、慎重に進めて欲しい。 岩代地域を考えると、旭小と小浜小は20キロ離れている。統合した場合の通学時間の問題もあるが、通学時の安全の問題もある。それぞれの学校をオンラインで繋ぐことで残していく方法もあるのではないかと。感想を含めた意見とさせていただく。（地域住民）	ご意見として承りたい。 複式学級の指導については引き続き教職員の研修を行ってきたい。また他県の先進の事例を見ながら学びを深めていきたい。通学に関する問題は引き取り、今後も検討をしていきたい。	松一
適正規模における複式学級に対して、肯定的な意見と課題があって、結局複式学級について推奨なのかわからない。具体的な支援も含めて補足いただきたい。個人的には、学年の垣根を越えた場を設けるという理解をしているので、社会性を育みにくいということや、学校の先生の細やかな指導助言をいただいているという肯定的な意見と反する意見を見てイメージと反する内容が書かれている印象だった。（保護者）	複式学級においてアンケートを取った結果だが、教職員については2つの学級を一緒に見ていくので、教える内容も2つ一週に教えるようになるという意味では教えるのが難しいといった意見が数多く出た。保護者、家族、子どもたちからは指導のきめ細やかさ、あるいは楽しく学んでいるといった部分が強く出た。現状、保護者や子どもたちは学が充実は感じているが、これからの将来に向けて考えたときに社会性がどうなっていくのか、大人数になった時に対応できるのかという心配も保護者の皆さんから多く出た。肯定的な意見と課題が拮抗して出ている。	安達
川崎小の1学年の人数は、しばらく6人といった人数が続くと思うが、今後10年渋川小との統合が無ければ、複式学級としてやっていくという理解でいいのか。また、どのくらいの人数から複式学級となるのか、複式学級と判断するのは学校側なのか、どのようになつたら複式学級となるのか教えていただきたい。（保護者）	複式学級の基準はどこが決めるのかということ、県の基準によって決まるため福島県となる。複式学級の配置については、1学年を含む場合は8名まで、1学年を含まない場合は16名までとなる。その考え方で渋川小を見ていくと、資料「二本松市の児童生徒の推移（推計）」5ページ、令和13年度、1年生は8名マックスの人数なので複式学級にならない。ただ、2年生9名と3年生7名を合わせて16名となるので、2、3年生は複式学級となる。4年生は12名、5年生は9名、6年生は11名なのでそれぞれ単式学級となる。そのため、渋川小の場合13年度には2、3年生が複式学級になると想定されている。（川崎小の令和8年度、9年度、10年度も同様に例示し、川崎小は令和8年度には複式学級が出てくることを説明。）複式学級であっても、ICTの活用あるいは教員の研修の中で主体的に学べる場が出来るということが全国的にも実践例としてあるので、教員の研修やICTを駆使しながら各学年4名という先ほどの基準に則って柔軟に話を進めて、複式学級の充実を現時点では目指していこうと委員の方々と話し合われて、答申の中に盛り込まれた。	安達

生徒の数が多ければ良い、少なければ悪いではなく、多くても学校に来ない生徒がいればどうなのかなという問題があると思う。各学年、何パーセント以上の生徒が学校に通学しているなどの中身（学校）が重要ではないかと思っている。 各学年の最小人数が、4名以上とすることが望ましいとのことだが、今後4名以下になれば複式学級は考えないということなのか。（地域住民）	複式学級の学級編成については、県で基準が決まっている、1年生を含む（1・2年生学級）と8名以下となっている。1年生を含まない（3・4年生、5・6年生）と16名以下となっており、くくった場合に該当すれば複式学級となるということが、現在の福島県教育委員会の考え方である。その点についても、検討委員会から、お話があり、その際に、ご説明させていただいたが、複式学級にも良い点があり、主体性を育むという点で大切にすること、複式学級を持つ地域の方々からも一人一人丁寧に見ていただいている、主体性が育まれているとアンケート等で、ご意見をいただいているところである。そういったものを教員も、研修を積んで複式学級をより充実した学級経営、学習指導になるような部分が必要だと考えている、検討委員会の方に、ご説明したところである。	東和
---	--	-----------

●将来的な統廃合の検討		
質問・意見	教育委員会回答等	地区
北小と塩沢小の統合検討について、近い将来とはいった頃か。(同上)	10数年後、適正規模を下回る状況は避けられないと予測し、そのようなイメージを持って答申の検討を行っている。答申で10年以上先のことを触れているのは、減少傾向が続く中、将来的には適正配置の検討は避けられず、今後も状況に応じ、市全体の今後の見通しを含めながら検討していかなくてはならないことを指摘したものの。	松一
地域のコミュニティに重点を置かれ、地域のまとまり等も大事だと思うが、中学校の規模を見ると二本松二中が二本松地域で一番規模が小さい。歴史的なものはあるが、むしろ規模を大きくする、例えば一中と統合するなども必要では。学ぶ環境には色々な選択肢が必要、石井、大平地区の子どもたちはおとなしい子が多い、高校に進学した際のギャップに戸惑いを感じる点があり、自分も経験してきた。子どもたちの視点を広げる、基盤づくりということを考えると検討が必要ではないか。(保護者)	検討委員も非常に葛藤していた。地域の伝統やコミュニティも大切である。ただこれからの時代を担う子どもを育てるには、自分を発揮する力を身につけていく必要がある。委員の皆様も二つの考え方の間で葛藤しながら議論し、子どもの学びやすい環境づくりを踏まえ、葛藤しながら答申をまとめてきたという状況です。	松二
児童の減少まったなし、市としての目標はあるのか。何年後にはこのような姿にしたいという目標はあるのか。(地域住民)	推移をみると、令和15年度では4名は下回ってない。このため検討会では令和15年度までは石井小、大平小は現状維持と見込んでいる。推計の中の数字であるため、具体的な時期等は説明できない。現時点ではこのような状況である。	松二
答申では、渋川小と川崎小について現状維持が望ましいとされたが、同程度減少する石井小と大平小は将来的に小中一貫校を検討していくとしている。違いは何か。(保護者)	安達地域については、油井小学校の児童生徒数がほとんど減少しない一方、川崎小、渋川小は減少傾向にある。検討会では、安達地域において考えるときに地域全体の小学校を見通して適正配置を検討していく必要があるのではないかという意見が出た。安達地域には油井小学校という大きな規模の学校があるが、二中学区については、石井小と大平小2つの小学校とも同じように減少している状況があるため、そちらが答申に反映された。安達地域においては、油井小学校があるということが二中学区との違いに大きく影響している。	安達
適正規模について、各学年4名未満となった場合に学校の統合等を検討していくとあるが、各学年4名以下になるまで待つということか。(保護者)	適正規模について、国の基準でいうと各学年10～20名となっているが、本市に当てはめると地域から学校が無くなってしまうという部分で検討会の皆さんも非常に悩んでいた。では、最低学びに必要な人数は何なのか、地域に学校を残すためにはどうしたらよいのかという点について、複式学級を持つ学校の保護者と子どもたちにアンケートをとった結果、導き出されたのが最低4名は必要であるということだった。4名になったらすぐ変えるということではなく、ICTを活用していく、あるいは、複式学級を含めて教員の研修を充実させながら子どもたちの学びやすい環境を整えていくといった工夫もあるのではないかと検討会の皆さんから指摘ももらった。4名になるまで待つのかということについては、地域の皆さんから色々な地域の振興策も併せて考えるべきではないかという貴重なご意見をいただいているので、そういった部分も教育委員会だけではなく当局と話しながら今後の地域づくり、学校づくりに生かしたいと思っている。	安達
適正配置を考える際に、地域コミュニティの重要性や現有施設の活用が基本的な考え方として書かれているが、渋川小と川崎小で状況によっては統合もあるということで、既存の学校の校舎をどのように活用していくのか。個人的には老朽化も進んでいる印象がある。その辺を令和15年度数人になった段階で考えていくのか、並行で考えていくのか。(保護者)	検討会の中で、渋川小と川崎小の統合の話も出たが、安達地域全体のことを考えたときに、先行して渋川小と川崎小2つだけ考えていくのは難しいのではないかと意見が出た。児童生徒数が令和15年度の段階では適正規模の人数を維持しているといった推計になっているため、具体的な統合の時期については、児童生徒数の推移を見ながら検討していく必要が出てくるであろうということで答申はまとめた。老朽化については、検討会では施設修繕等の意見は出なかったため、今回の説明会の中で具体的に伝えるのは難しいところではあるが、ここでご意見としてお預かりさせていただく。	安達

学校を中心とした地域のコミュニティづくりは昔から言われたてきたことだが、今は子どもも減少しているのだから、岩代地域に学校を残すということにこだわらなくていいのではないか？合併したのだから二本松市として考えていいのではないか？今はこの答申でいいのかもしれないが、児童生徒数の推移をみると、将来的にはまた他の地域と統合になることが目に見えている。長いスパンでの検討をお願いしたい。（地域住民）	今後の参考とさせていただきたい。	小浜 岩代
---	-------------------------	------------------

●人口減少対策、人口増加策

質問・意見	教育委員会回答等	地区
塩沢小は北小と統合するのではとの噂が以前からあり、塩沢から別学区に家を建て転居する人がこれまでもいた。これからも別地域に転居する人が増えるのではないかと。それを変える市の施策があれば教えて欲しい。（小学生保護者）	この答申をもって決定ではなく、地域説明会の開催を受け決定していく予定。子育て支援や定住促進については市全体の施策として検討しているところであり、定住対策等については他の自治体でも苦慮している状況です。移住定住や児童福祉に取り組んでいる。市では宅地造成等も展開中である。	松一
人口減についての説明は分かった。教育委員会の主管ではないと思うが、人口の減少を抑える取り組みは何か考えているのか。児童生徒数の推計は、そういった取り組みを考慮した上でのものなのか。（地域住民）	児童生徒数の推計は出生率での推計である。人口ではなく児童生徒数の推計なので、出生率に基づき推計を出した。	小浜 岩代
将来的に二本松市が無くなるとの噂も出ているが、それを防ぐのが市長の役割だ。このような資料を作るなら、市の施策も考慮した上で児童生徒数を推計しなければ意味がないのではないかと。（地域住民）	ご意見は承る。	小浜 岩代

●小中一貫校、義務教育学校

質問・意見	教育委員会回答等	地区
小中一貫校・義務教育学校とは何か、教えて欲しい（地域住民）	（次第下部用語説明を基に説明。）	松一
岩代地域だけ義務教育学校とした理由は何か？小中一貫校との違いは（地域住民）	小中一貫校は、従来の6・3制が基本となるが、義務教育学校は、5・4制や4・3・2制にすることができる。例えば4・3・2制にした場合、3のところ、つまり小学校5・6年生と中学校1年生のところは、小・中学校の教員が積極的に乗り入れて授業を行うことが当たり前になる。また、小学6年から中学1年かけては、子どもたちが多感でいじめや生徒指導などが起こりやすい時期になるが、小・中学校の複数の教員の目で見守ることができるようになる。さらに、教育課程についても、9年間を一体とした学びとなるため、9年間をかけて岩代について段階的に深く学ぶことができる。岩代地域は他の地域よりも人口減少が著しい中、義務教育学校とすることで、地域の特色を生かした魅力的な学校作りができるとの答申になったところである。	小浜 岩代
義務教育学校は非常に希望があると感じるのだが、なぜ岩代地域だけなのか。他の地域でもできないのか（地域住民）	制度上の問題として、義務教育学校を作るには、県との協議、人員配置、校舎の改築など課題が多く、複数の地域で同時に行うのは不可能だろうとの判断になった。そう考えたときに、まずは人口減少が一番激しい岩代地域に一番魅力的な義務教育学校を設置すべきとの答申になったところである。	小浜 岩代
前回のアンケートから5年が経っているが、もっと短いスパンで、1年とかのスパンでやってもらえるとありがたい。スマホ等での市からのアンケートにはできるだけ回答するようにしているのだが、もっと簡単に身近に保護者が意見を伝えられる場があると嬉しい。一つ疑問なのだが、義務教育学校になった場合、小学校の卒業式とか中学校の入学式とか、そういうセレモニーは無くなってしまうのか。（保護者）	義務教育学校の場合、今までの6年制の区切りが埋没してしまう恐れもあるのが事実である。他の自治体の義務教育学校では、そうならないよう卒業式とは別の区切りを設けるなどの取り組みをしていると聞いている。	小浜 岩代

●学びについて		
質問・意見	教育委員会回答等	地区
この答申が悩みに悩んで作られたと感じた。子どもは地域の宝という言葉はここにきて身近に感じた次第。二本松市も消滅自治体に含まれているが、これから子どもたちをどうやって育てていくか喫緊の課題。今、子どもたちはどこでも勉強をすることができ、子どもがどこで勉強するかがとても大事である。何処で勉強をしても、個できちんと育っていくことが大事。小さな学校で学んでも、色々なところとつながり、発信できれば良い。都会の子どもたちとの触れ合いもオンラインでできる、地域の良さをオンライン等で発信していける子どもを育てたい。そして地域を大切に思っている子どもをつくるにはこの土地で育てたいと思う。学校がない地域はさびれていく。できればこの案で、何とか消滅しないように、子どもたちをよりよく育てていけたら良いと感じる。（保護者）	地域が子どもの宝だ、という言葉は検討会でも出た。また、地域から学校が無くなると地域が落ち込んでいく、という意見も出た。その中で、国の基準ではなく学び合う学びのために最低限必要な4名という数字を出した。そして地域との結びつきを作る学校にしたいという意見も検討会で話が出たことを申し添えたい。オンラインの話があったが、ICTの発展は目覚ましい。学校にも1人1台タブレットが入り、オンライン授業もできる環境となっている。それらをどうやって結び付けていけるか。教員研修の充実も含めて考えるよう検討会から話があった。小中一貫校の件では2つの学校が学び合いながら相互に学びを発信し合う、という意見も検討会では出ている。	松二
地域により学校の形態が異なることによる子供へのストレスや影響が心配。学力等に差が生じないか。そういったことが無いよう平等に教育してもらえるか。（保護者）	教育委員会として、一番は子供たちにとって望ましい環境づくりを心掛けており、一貫校や義務教育学校であってもそれは同じ。教員の研修、ICT環境の充実を図り、成果の普及啓発等、学校間で連携しながら、より良い教育環境づくりに努めていきたい。	松三
適正配置の基本的な考え方1「児童生徒の学びやすい環境を整備することを最優先に考えること」とは具体的にどういうことか。設備的なことなのか。（地域住民）	これからの子どもたちには、答えのない問題に対してみんなで協力して答えを導き出す力が必要と考える。これを協働的な力と言うが、これが最も大事だと思っている。学びやすい環境とは、そういった力を育むことも含まれるし、設備的なことももちろん含まれる。この件については、地域の皆様とも相談しながら、学校全体として取り組んでいきたいと考えている。	小浜 岩代
『ICT機器の活用やコミュニティスクールの活用も視野に入れて検討すること』とあるが、もう少し詳細に説明してほしい。 また、『当面は併設型の小中一貫校とし、今後の児童生徒数の減少を見据え、早期に現在の東和小学校校舎を活用し、一体型の小中一貫校に移行することが望ましい』という部分を、もう少し詳しく説明してほしい。（保護者）	ICT機器の活用については、コロナ化を受けてタブレットの普及、学校の通信設備もかなり整備された。各学校をつなぎ、オンラインで授業をやる方向性も可能となっている。人数的な状況によって議論が必要な場合には、オンラインで様々な学校をつなぎ議論することが可能であると考えている。教職員の研修等を踏まえて実行していこうと思っている。検討委員会の方にも同じような質問があり、説明しているところである。また、コミュニティスクールについては、地域とともにある学校であるため、その辺を生かしながら、地域の方から様々なご意見をいただき、そして、様々にご協力をいただいて、子供たちも地域に入りながら学んでいくことも、ぜひ、必要だということを、答申で頂いたということである。 『早い時期に』ということで、具体的な時期ですが、今後市では、適正配置の方針等を示すことになるが、この検討会の答申を尊重し、皆さんからご意見いただいた内容を付したうえで市長に報告する。最終的には、学校設置者である市長が判断することとなる。その後については、スケジュール等も含めて今後検討させていただきたい。	東和
●推計方法		
質問・意見	教育委員会回答等	地区
児童数の推計値は、どのように算出しているのか。（地域住民）	令和11年度までは令和4年度までに生まれた子供の人数。令和12年度以降は各小学校区の児童数の割合から推計した数値。	松三

●適正配置計画、統廃合の進め方		
質問・意見	教育委員会回答等	地区
適正配置計画は、何年から何年までの計画となるか（同上）	期間は未定。統合となった場合、学校の改修、教員の異動調整等が出る。現時点ではお答えできない。	松一
統合等される場合の移行方法について、ある年度から他の学校に移行になるのか、6年まで通学させ新たに入学は受け入れないトコロテン方式での移行になるのか。（保護者）	現時点では答申で統廃合の方向性が示された段階であり、移行の方式については未定。今後具体的に検討していく。	松三
今後統合や義務教育学校に移行となる場合、地域住民が参加し、学校の在り方等について意見を述べられるような場を設けてもらえるか。（保護者）	答申の内容については肯定否定様々な意見があると思われるが、我々としては本日いただいた意見を添えて報告していきたい。また、移行に関してどういったかたちで進めていくかについては今後検討していくのでご理解願いたい。	松三
コミュニティスクールに今後力を入れていくのか。また運営に関して、教育委員会と地域住民どちらの意向がメインになるのか。（保護者）	地域とともにある学校づくりが本市のメインテーマであり、今年度から市内すべての学校にコミュニティスクールを導入した。それぞれの学校に地域の方々に入ってもらい、学校運営協議会の委員を委嘱させていただき様々な形でご意見をいただきながら活動の充実を図っている。 教育委員会がというよりは、地域のための学校、地域の方と共に進めるというのがコミュニティスクールの理念なので、適正規模、適正配置を進めていく中でもこの理念を大切にしながら運営していく。	松三
行政区長として原瀬小の学校運営協議会に参加している。長年地区を見てきて、少子化や人口減少を目の当たりにし、残念ながらそういう時期（統廃合）にきているのかなと感じている。ただ小学校が地域の核として機能してきた事も事実であり、地域住民としていかに学校を盛り上げていくかという理念を持って取り組んできた自負もある。 そういう意味では、子どもたちや地域が今後も継続していけるよう、引き続き各地域でこのような場を設けていただき、地域住民の意見要望を取り入れてもらえることを強く要望する。（地域住民）	学校を地域の核として支え、盛り上げていくという考えは検討会としても同じ意見。同時に、いずれは巣立っていく子どもたちにどういった力を身につけさせるか、そのためにどのような環境を整えるかという部分で常に葛藤を抱えているのも事実。 今回の学年最小人数4名という答申内容は、なるべく地域に学校を残すということを前提に、子どもたちの学び環境を考えながら導き出したものとなっているのでご理解願いたい。	松三
HPを見た。もっと早く知りたかった。推計にとらわれずに努めて行ってほしい。（地域住民）	貴重なご意見ありがとうございます。	松三
この答申は将来的なものだが、今すぐにできないのか？遅すぎる。私の周りでも、こんな少人数では教育が不安だと言って出て行った人が多くいる。今回の答申もいつ実現するか分からないのであれば、また岩代から出ていく人が増えるだけだ。今後の見通しはどうなっているのか聞かせてほしい。（地域住民）	人口減への危機感については承知した。スピード感を持って早めに進めて欲しいとのご意見については、しっかり記録に留めて今後の参考としていきたい。	小浜 岩代
先ほどの方も言っていたが、遅すぎる。私は、2019年に市のホームページでこの検討会のことを知ってから、自分なりに人口を調べてきた。資料の児童生徒数の推計は出生率に基づくものだが、私は、実際はこの半分程度になると思っている。今の答申では岩代に義務教育学校設置としているが、実現が5年先、10年先になるのであれば、それすら難しくなるのではないかと。また、先にも意見があったが、地域のコミュニティを守るというのも分かるが、合併して20年が経過する中で、無理に岩代地域にこだわらなくていいのではないかと。コロナもあったからか、今は地元住民が学校の行事に呼ばれることもなくなり地域のつながりも薄くなっている。自由学区は難しいとしても、東和や石井・大平へ通えるようにするのも1つの方法だと思う。是非、10年、20年先を見据えた計画を立ててほしい。もし、この答申が絶対的なものでないなら、若い人へアンケートを取るなどして見直しをしてほしい。 個人的には、東和小には空き教室が多くあるはずなので、岩代地域と東和地域を合わせて、東和小に小中一貫校を設置するのが良いのではないかと思います。（地域住民）	岩代地域の人口減については、検討会の中でも委員の皆様が非常に危惧していたところである。その中でも何とか岩代地域に学校を残したいと考え、その結果出された答申であるが、今回のご意見もしっかり受け止め検討していきたい。	小浜 岩代

①義務教育学校がある自治体はどこか。 ②今後のタイムテーブルはどうなっているか。（地域住民）	①先進的なところでは郡山市の西田学園がある。郡山市では他に湖南小中学校がある。他には、須賀川市の稲田学園や、福島市の松川でも現在進めているところがある。 ②今後のタイムテーブルについては、今日の皆様のご意見を市長に伝えて判断してもらうことになるので、この場ではお示しできない。	小浜 岩代
郡山市の西田学園は、校舎も立派なものを作り直して義務教育学校を運営している。二本松市でどこまでのものを想定しているか分からないが、是非、そのような学校を作る心構えで取り組んで欲しい。（地域住民）	ご意見は承る。	小浜 岩代
タイムスケジュールも無くてこんな説明会をすることが無責任だ。何か質問しても、記録に留めると言うだけだ。タイムスケジュールはいつ出るのか。（地域住民）	今回は答申に対する皆様のご意見をお伺いするのが目的であり、結論ありきのものではないことをご理解いただきたい。	小浜 岩代
早く計画を決めてもらわないとみんな岩代から出ていってしまう。我々住民もそこに強い危機感を持っている。やるのだったら一刻も早くやってほしい。（地域住民）	繰り返しになるが、今回は答申に対する皆様のご意見をお伺いするのが目的である。ご意見は承る。	小浜 岩代
①今後また何か決まった場合は、このような説明会を開催してもらえるのか。 ②検討会の委員は今日この場には来ていないのか。（保護者）	①今後、市長が判断し決定したら、地区ごとに説明会を開催するよう検討したい。 ②検討会は答申を出して頂いた時点で終了となっている。今後は、皆様からのご意見を受けながら計画を作っていく予定である。	小浜 岩代
学童の話はどこまで進んでいるのか。（保護者）	今回はあくまで学校としての内容なので、検討委員会でも学童までは検討していない。具体的にはどんな要望があるかお聞かせいただきたい。	小浜 岩代
今後どうするかは誰がどうやって決めるのか。市長が決めたらずで決定になるのか。（保護者）	今回のご意見を踏まえて計画案を策定して、それを住民の皆様に説明するようになると思う。	小浜 岩代
今、子どもが小学２年生で、旭小から小浜の学童に２０分かけてタクシーで通っているが、高学年になると人員オーバーで通えないかもしれないと言われている。自分はひとり親なのでそうなる就非常困る。学校の配置と合わせて、学童の規模も大きくするなど考えてほしい。（保護者）	学童は学校の配置とあわせて検討しなければならない内容だと思うので、今後参考にしていきたい。	小浜 岩代

●調査検討会		
質問・意見	教育委員会回答等	地区
①検討会のメンバーについて ②答申について広報誌には載っていたのか。 ③推測だと人口が減る一方だが、市として増やす努力はしないのか。 （地域住民）	①大学教授、学校関係者、保護者、地域の方々等 ②広報に掲載するタイミングが難しく、新聞と市のウェブサイトに掲載した。今年1月に民友に掲載された。取材は民報・民友両方から受けた。 ③人口増への取り組みについては、我々からの説明は難しい。また転入等は推計に加えるのが非常に難しい。社会増は可能性としてあり得るが、推測としてはあくまで出生数のみを使用した。	松三
この答申が出る前に、保護者にアンケートをとったりしていないのか？検討委員会の委員が検討しただけなのか。（地域住民）	アンケートは小規模校の児童、保護者を対象に行った。保護者全員にはアンケートは行っていないが、検討委員会の委員として、4地域の保護者と地域住民の方に入ってもらった。 補足として、保護者アンケートは令和2年度に2,000人に実施している。各地区の人口で按分して実施した。 さらに補足として、我々教育委員会の職員が複式学級のある学校に出向いて、保護者から直接話を聞いている。今回の答申は、それを踏まえたものである。	小浜 岩代
●学区		
質問・意見	教育委員会回答等	地区
岩代地域に義務教育学校ができた場合、特色ある学校として、学区に関係なく、市内全域から誰でも通えるようにできるのか（地域住民）	この場で回答することはできない。ご意見があったことは承る。	小浜 岩代
岩代は縦長の地形のため、東和の方が近いという人もいる。岩代地域に学校1つとなった場合、希望すれば東和の学区へ通うこともできるようになるのか（地域住民）	答申では、地域のコミュニティを守ることが大切と考えており、学区外への通学は、地域のコミュニティ衰退につながる恐れもあるため想定していない。ただ、今回こういったご意見があったことは記録として留めておく。	小浜 岩代
簡潔に、他の学区へ通うことはできるのかを聞きたい。（地域住民）	自由学区という考え方だが、これは、通学児童数が決まらなと教員配置が決まらないといった問題もあり、慎重に検討しなければならない。今この場ではお答えすることはできないが、ご意見があったことは承る。	小浜 岩代
今、東和小には空き教室がいくつあるのか？東和小や東和中の空き教室を活用して岩代地域の子どもを受け入れることも検討すべきだ。（地域住民）	空き教室の数については明確に把握していない。ご意見は承る。	小浜 岩代
当園には、石井などから通っている子もあり、年長組の半数は岩代以外の学区へ行く予定だ。年中、年少組もそうなると思う。この状況を見ると、岩代地域だけで1つの学校とするのは難しいのではないかと？先にも意見があったが、岩代に学校を1つ作ったとしても、また数年後に統合になるのは避けられないと思う。東和に近い人は東和に通いたいと思っているだろうし、是非、今までの枠組みを取り払った対応を考えて欲しい。（保護者）	今回の答申は、子どもの学びをどうするか、地域のコミュニティをどう維持するか、検討委員の皆様が悩みに悩んで出したものであるが、今回のご意見もしっかりと受け止めたいと思う。	小浜 岩代